

科目名	応用物理		英文表記	Applied Physics		作成・修正日 2017.3.13	
科目コード	3102						
教員名: 宮田 恵守 技術職員名:						作成	
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態
機械システム工学科			3年	必	履修	2単位	講義
科目目標 【MCC目標】	①質点系力学の基本を理解する。【Ⅱ-A】 ②熱力学・波動の基本を理解する。【Ⅱ-A】 ③電磁気学の基本を理解する。【Ⅱ-A】 ④原子・電子物性の基本を理解する。【Ⅱ-A】						
総合評価	①質点系力学に関する問題を出し理解度を見る ②熱力学・波動に関する問題を出し理解度を見る ③電磁気学に関する問題を出し理解度を見る ④原子・電子に関する問題を出し理解度を見る ⑤学習到達度試験における理解度を見る						
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の 評価方法	ルーブリック			
				理想的な 到達レベル(優)	標準的な 到達レベル(良)	最低限必要な 到達レベル(可)	セルフ チェック
	25%	① 質点系力学の問題を解ける。	正しく理解し、身につけているか定期試験および学習到達度試験で評価する。	幾つかの法則を組み合わせた応用的な問題を解く事ができる	基本的な法則を用いて問題を解く事ができる	基本的な法則の内容について理解している	
	25%	② 熱力学・波動の問題を解ける	正しく理解し、身につけているか定期試験および学習到達度試験で評価する。	幾つかの法則を組み合わせた応用的な問題を解く事ができる	基本的な法則を用いて問題を解く事ができる	基本的な法則の内容について理解している	
	25%	③ 電磁気学に関する問題を解ける	正しく理解し、身につけているか定期試験および学習到達度試験で評価する。	幾つかの法則を組み合わせた応用的な問題を解く事ができる	基本的な法則を用いて問題を解く事ができる	基本的な法則の内容について理解している	
25%	④ 電磁気学に関する問題を解ける	正しく理解し、身につけているか定期試験および学習到達度試験で評価する。	幾つかの法則を組み合わせた応用的な問題を解く事ができる	基本的な法則を用いて問題を解く事ができる	基本的な法則の内容について理解している		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	<本科教育目標> (1)技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する		
	◎			○			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物)	総合評価	セルフチェック
評価項目		100	0	0	0	100	
基礎的理解		60				60	
応用力(実践・専門・融合)		30				30	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲		10				10	
授業概要、方針、履修上の注意	全ての工学の基礎となる各種物理法則とその応用例について学ぶ。物理で学んだ内容を基礎とし、微積分やベクトル解析を用いたより高度な知識と応用技術について講義する。						
教科書・教材	基礎物理学(学術図書出版社)						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	ガイダンス、物理の復習	2	物理で学習した内容の確認【Ⅱ-A】		
2	力学の基本	2	速度と加速度、運動の法則について学ぶ【Ⅱ-A】		
3	力学の基本	2	等速円運動について学ぶ【Ⅱ-A】		
4	力と運動	2	放物運動、振動について学ぶ【Ⅱ-A】		
5	力と運動	2	仕事とエネルギー、運動量について学ぶ【Ⅱ-A】		
6	回転運動と剛体	2	質点の回転運動について学ぶ【Ⅱ-A】		
7	回転運動と剛体	2	剛体のつり合い、重心について学ぶ【Ⅱ-A】		
8	中間	2			
9	回転運動と剛体	2	剛体の回転運動について学ぶ【Ⅱ-A】		
10	波動	2	波の性質(波長、周期、振動数、速さ、干渉)について学ぶ【Ⅱ-A】		
11	波動	2	音波(気柱の振動、ドップラー効果)について学ぶ【Ⅱ-A】		
12	波動	2	光波(反射、屈折、分散)について学ぶ【Ⅱ-A】		
13	熱	2	熱と温度、熱の移動について学ぶ【Ⅱ-A】		
14	熱	2	熱力学の第一法則、第二法則について学ぶ【Ⅱ-A】		
15	熱	2	カルノーの原理、熱機関について学ぶ【Ⅱ-A】		
期末	期末試験	[2]			
16	電荷と電場	2	クーロンの法則、電場について学ぶ【Ⅱ-A】		
17	電荷と電場	2	ガウスの法則、電位について学ぶ【Ⅱ-A】		
18	電荷と電場	2	キャパシター、誘電体について学ぶ【Ⅱ-A】		
19	電流と磁場	2	オームの法則、直流回路について学ぶ【Ⅱ-A】		
20	電流と磁場	2	磁石と磁場、電流のつくる磁場について学ぶ【Ⅱ-A】		
21	電流と磁場	2	電流に働く電磁力について学ぶ【Ⅱ-A】		
22	電流と磁場	2	磁性体がある場合の磁場について学ぶ【Ⅱ-A】		
23	中間	2			
24	振動する電磁場	2	電磁誘導について学ぶ【Ⅱ-A】		
25	振動する電磁場	2	交流について学ぶ【Ⅱ-A】		
26	振動する電磁場	2	マクスウェルの方程式と電磁波について学ぶ【Ⅱ-A】		
27	学習到達度試験	2			
28	原子物理学	2	原子の構造、光の粒子性について学ぶ【Ⅱ-A】		
29	原子物理学	2	電子の波動性、不確定性原理について学ぶ【Ⅱ-A】		
30	原子核と素粒子	2	原子核の構成と放射能について学ぶ【Ⅱ-A】		
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間	
①	講義の予習復習と疲労寿命予測に関する試験対策			各2時間×30回	
②					
③					
備考欄					
(各科目個別記述) ・この科目の主たる関連科目は… (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) …					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)